

創立 1980年10月8日



ROTARY CLUB OF SAKAI NORTH

第2640地区 堺北ロータリークラブ週報

事務所 〒590-0024 堺市堺区向陵中町2丁5-10 杉本ビル5-B・Tel:(072)255-1200 番

例会日 毎週金曜日 午後0時30分

例会場 PANTARON Tel:(072)228-3988 番 (魚太郎直通電話)

URL : <http://www.sakai-kita.jp/>

E-mail : snrc@jasmine.ocn.ne.jp

ガバナー(第2640地区) 辻 秀和(ツジ ヒデカズ)

ガバナー事務所 URL : <http://www.rid2640g.org/tsuji/>

E-mail : tsuji2014-d2640@ivy.ocn.ne.jp

会長: 山ノ内修一 幹事: 塩見 守 広報委員長: 坂田兼則 編集者: 坂田兼則

四つのテスト 言行はこれに照らしてから 1.真実かどうか 2.みんなに公平か 3.好意と友情を深めるか 4.みんなのためになるかどうか

0

本日の例会

2014年12月12日(金)第1642回

卓話 「上半期を顧みて」

卓話者 会長 山ノ内 修一

今週の歌「我等の生業」

「北帰行」

お客様の紹介

出席報告 会長の時間

委員会報告・幹事報告・SAA報告

○皆出席表彰(12月度)該当者なし

今週の歌

「北帰行」

窓は 夜露に濡れて

都 すでに遠のく

北へ帰る 旅人ひとり

涙 流れてやまず

次回の例会

2014年12月21日(日)第1643回

「例会変更 及び 忘年例会」

受付17時～ 開会17時30分～

場所: シェラトン都ホテル大阪

3F 明日香の間

2014年12月5日(金)第1641回

卓話 「われらがマチのちんちん電車

～岸谷勢蔵が描く堺の姿から～

卓話者 堺市交通政策課 堺市史研究会

研究会会員 井溪 明様

紹介者 堀畑 好秀 会員

今週の歌「君が代」「奉仕の理想」

「バースディソング」

お客様の紹介

出席報告 会長の時間

委員会報告・幹事報告・SAA報告

○会員・奥様誕生祝い(12月度)

泉谷一郎会員(4日) 塩見 直子様(3日)

嶽盛幸子様(25日) 堀畑キヌ子様(26日)

澤井ふみ様(30日)

○結婚記念祝い(12月度)

泉谷一郎会員(4日)

<12月5日(金)の出席報告>

会員数 33名

出席会員 20名

欠席会員 13名

ビジター 0名

ゲスト 0名

10月17日(金)の出席率 90.91%



2014-15年度 国際ロータリーのテーマ

「ロータリーに輝きを」

Light Up Rotary

国際ロータリー会長 ゲイリーC.K.ホアン(台湾・台北RC)

卓 話

「われらがマチのちんちん電車（その2）～岸谷勢蔵が描く堺の姿から～」

堺市交通政策課 井溪 明
(未来へつなごう！堺チン電の会担当)



岸谷勢蔵とは

堺の風物・人物・事象を終生描き続けた近代堺を代表する「郷土画家」。
まとまった作品としては、戦前の勸業祭の賑やかな様子を描いた「堺勸業祭絵巻」（昭和10年7月）、戦中に宿院から堺駅方面にかけて疎開にかかった区域を記録した「堺市第一次疎開地区記録」（昭和19年）、宿院にあった岸谷家の建物と年中行事などを描いた作品等々、堺に根差したあらゆるものを絵画化（記録化）している。近代堺を具体的に視覚的に描いた画家としては第一人者であり、その膨大な作品は今忘れられつつある堺の姿を彷彿とさせてくれるものがある。

今日、堺の町の記憶を掘り起こし、耕してゆくうえで欠かすことのできない材料をあまた提供してくれているとともに、近代堺で決して忘れてはいけない人物の一人である。

<略年譜>

明治32(1899)9月10日

堺市大町東1丁4の岸谷常七の二男として生誕。

大正12(1923)

陸軍除隊後、上本町の精華美術学院入学。翌年卒業。

昭和4(1929)結婚。

昭和10(1935)

この年の7月に大々的に開催された「堺市勸業祭」の克明な絵巻を制作。

昭和19(1944)

空襲の防火対策として行われた建物の強制疎開により、堺市では20年7月にかけて5次に亘る建物疎開が行われる。これに際し、堺市は「堺芸術報国聯盟(芸報聯)」に依頼し、安西冬衛をはじめとする堺市の文化人により疎開を記録する文章や写真・絵画が作成される。この中で、代表作ともいえる「堺市第一次疎開地区記録」（堺市立中央図書館、堺市博物館、小谷城郷土館）の制作が始まり10日本画完成となる。

昭和20(1945)

片蔵へ疎開し、終戦。この年の7月10日の第4次堺大空襲の様子や、焼失した生家、さらに戦災を受けた町の各所を描く。

昭和23(1948)

堺へ帰住。この後、様々な書籍などの挿絵を手掛ける。

昭和24(1949)

大町大道東の生家を克明に描いた画冊を制作。これにより堺の店の佇まいの一端と年中行事を偲ぶことができる。

昭和40(1965)

商工会議所刊の「堺あれこれ」挿画。この間、堺市民会館エントランスケースを飾る長大な「堺絵年表」を制作。

昭和50(1975)

「堺の風物詩：三部構成」制作。まさに堺の絵事典ともいべき作品群である。

昭和55(1980)9月15日

堺病院にて脳血栓で死去、享年81歳。

付記

本発表にあたって、堺市立中央図書館および堺市博物館所蔵の岸谷勢蔵作品を調査し、「堺市第一次疎開地区記録」については、堺市博物館学芸員矢内一磨氏の協力・助言を得ました。記して謝すものです。

会長の時間

「ダメ！ゼッタイ！」

会長 山ノ内修一



12月3日、東京・世田谷区で危険ドラッグを使用した男が隣の家に住む女性をナイフで切りつけるという事件がありました。

私たち堺北ロータリークラブは、奉仕活動の一環でもう長い間「ダメ。ゼッタイ。」の標語のもと薬物乱用防止活動に取り組んできました。毎年15万円ほどを「薬物乱用防止活動」に寄付をしています。

しかし、危険ドラッグによる事件・事故があとを絶ちません。以前にも増して頻発しているように思います。悲惨な事故も多いです。

二つの疑問を持ちます。

「なぜ、危険ドラッグを使用するのか？」

使用すればどうなるか分かっているだろうに……。ストレスの発散あるいは現実からの逃避とか仮に理由があるとしても、他人の迷惑を考えない自分勝手な行為です。

もう一つは「なぜ、危険ドラッグを売るのか？」

これも使用すればどうなるかは分かっているがなぜという思いがしてなりません。儲かりさえすれば他人がどうなろうと知ったことではない、というのが透けて見えます。どちらも「他人の迷惑」ということが一切考慮されていないことが悲しく思います。

以前、府の薬務課の方を招いての卓話で「低年齢化」も問題になっていると聞きました。厚生労働省のホームページを見ますと「小学校6年生保護者向け」というリーフレットもありました。かなり深刻な事態でしょう。

私たちにできることは限られていますが、できる範囲で薬物乱用のストップに努めていきたいと思います。

毎月の「ダメ。ゼッタイ。」募金へのご協力をよろしくお願いします。

S A A 報 告

泉大津RC 原 真理子様 堺北ロータリークラブ皆様ありがとうございます。

堀畑好秀会員 妻の誕生日お祝いをいただいて。

北側一雄会員 急に寒くなってきました。風邪などひかれませんように。
何かと、お世話になり、ありがとうございます。

新井茂文会員 12月3日PM3:00頃、泉ヶ丘CCで女性キャディー運転に後方から
当てられ、手袋が破れ、左肘と左小指が負傷しました。今年中はクラブ
が握れません。「ゴルフも安全オー!!」

宇瀬治夫会員 一寸いい事ありました。

城岡陽志会員 大連はマイナス4度でとても寒かったです。

山ノ内修一会員 井浜さん、本日の卓話よろしくお祈いします。

山ノ内修一会員 原理事長、今日はようこそお越しくございました。大歓迎です。

塩見 守会員 妻の誕生日祝いありがとうございました。

計 28,000円

委 員 会 報 告

その他

会長 山ノ内修一
幹事 塩見 守

「特別例会 開口神社参拝のご案内」

寒冷の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃は大変お世話になって
おります。

さて、特別例会 開口神社参拝は下記の通り開催いたしますので、ご出席下さいます
ようお願い申し上げます。

記

日 時 : 平成27年1月3日(土)

集合場所 : 開口神社 境内 10時20分～

(特別例会にご出席の会員様はメイクアップとさせていただきます。)

以上

「2015年新春合同例会のご案内」

新春合同例会は下記のとおり開催いたしますので、皆様方の多数のご参加をお願い
申し上げます。

記

開 催 日 平成27年1月8日(木)

登録受付 午前10時20分

新春合同例会 午前11時00分～14時30分

(ビュッフェスタイルのお食事をご用意しております。)

幹事報告

(1) 本日の配布物

- ・週報
- ・本日の卓話 資料
- ・2015-16 年度理事役員(案)
- ・堺市公共交通活性化促進基金ご寄附のお願いパンフレット

(2) 幹事報告

例会終了後理事会がございますので、理事・役員の方々は例会終了後お集まりください。

その他

第6回 定例理事会

2014-2015 年度理事会構成メンバー

山ノ内、綿谷、坂田、塩見、木畑、池田、徳田、宇瀬、中田、嶽盛、城岡、中川、藤永、笹山 (計14名中12名参加で理事会成立)

日 時 2014年12月5日 (金) 例会後

場 所 「PANTARON」 会議室

議 案

1. 11月11RC連絡協議会 一報告
2. 会計 キャッシュカードの件
一般会計とニコニコ会計の2つの口座でキャッシュカードを作る 一承認
3. クラブ細則の件 一変更する箇所を承認。来年度改めて全員に報告。
4. 地区予算案について
城岡年度と山ノ内年度で地区に支払うべき金額で預り金としている分を次年度の会計に充当して計算書を会員に送る。
5. 「2017-18 年度ガバナー候補者推薦」について 一賛成で承認
6. その他
 - ・堺北ロータリークラブの中型クラブ旗横型とその付属品一式を新しく購入する件 一承認
 - ・クラブバナー残り少なく100枚購入の件一承認
 - ・次年度、小西会員が地区 米山奨学委員を務めて下さる件 一承認

堺11RC連絡会

日時：平成26年11月14日 (木) 14:00

場所： PANTARON

1. 堺かるた大会協力について (堺フェニックスRC)
来年度より堺11RCの名義で開催したい。一承認

2月7日（土）熊野小学校にて開催します。

2. 新春合同例会について（堺フェニックスRC）

登録料4,000円 ー承認

補足：前年度ホストの堺中RCから繰越金1,030,644円を戴いております。

また平成26年8月末現在の堺11RCの会員数は305名です。従いまして、上記の登録料でご承認いただけるならば一人当たり7000円相当の新春合同例会・互礼会をご用意させていただけると私たちは考えております。

3. その他

次回連絡会

日時：12月11日（木）14：30～

場所：堺商工会議所 3階

ホスト：堺おおいずみロータリークラブ



2015年～16年度 理事役員

理 事 ・ 役 員			
会長(理事)	坂田兼則	クラブ奉仕(理事)	城岡陽志
会長エレクト(理事)	中田 学	職業奉仕(理事)	中川 澄
副会長(理事)	辰 正博	社会奉仕(理事)	塩見 守
幹事	藤永 誉	国際奉仕(理事)	澤井久和
SAA	池永隆昭		
会計	池田茂雄		
その他	副幹事 笹山悦夫	直前会長 山ノ内修一	直前幹事 塩見 守
	副SAA 畑中一辰	(監査担当 國井 豊)	

「包括的な教育支援をめざして」



インドと米国のロータリークラブが協力した補助金プロジェクトで、インドの学校に届けられた新しい机に座る生徒たち。

米国（メイン州）のケネバンクポートサイド・ロータリークラブは、2年前、インドとパキスタンの国境近くにある町、ビーカーネールで学校支援の活動を始めました。

ビーカーネールを選んだのは、会員の1人であるローヒット・メータさんが現地の出身であり、知り合いがいたからです。現地のロータリー会員と連絡を取り、早速、4つの公立学校に机を提供することになりました。

新しい補助金をきっかけに

最初の寄贈の後、もっと多くの机が必要だと要請を受けたクラブは、もっと大きな構想を練る必要に迫られました。ロータリー財団の新しいグローバル補助金を利用するには、物品購入だけでなく、根本的な問題に取り組むことが条件となっていたからです。会員たちは知恵を寄せ合い、机の寄贈というシンプルなプロジェクトから、多くの子どもに教育の機会を与え、教員研修も行うという大きなプロジェクトを立案しました。

「新しい補助金の要件を満たすには、さらに踏み込んだ検討が必要でした。おかげで、結果的には質の高いプロジェクトとなりました」と話すのは、ロータリー第7780地区（メイン州を含む）のロータリー財団委員長、ピーター・ジョンソンさんです。「インドの学校に机を寄贈するのはよいが、そこから次に何をすべきだろうか、と突き詰めて考えるいい機会になりました。新しい補助金要件が、プロジェクトの範囲や趣旨をさらに拡大させることにつながったのです」

入念な現地調査に基づくプロジェクト

プロジェクトの始動に貢献したメータさんは、故郷を助けるこの補助金プロジェクトに心から感謝しています。「故郷のロータリアンたちと一緒に何か活動ができれば、と考えたのがはじまりでした」。プロジェクトの範囲を広げる中で、いくつかの課題に直面したものの、その過程でいつも、現地の人びとが協力してくれました。「現地の方は辛抱強く、必要な情報を集めたり、リクエストに応じてくれました。あきらめず、グローバル補助金の要件を満たせるよう最善を尽くしました」

米国からインドを訪れ、現地の学校を視察したロータリー会員、コーネリア・ストックマンさんは、プロジェクトの計画にあたって、地域の現状を調べました。裕福な家庭は机や教室の整った私立学校に子どもを通わせていますが、それとは対照的に、公立学校では資金不足のため、生徒たちが地べたに座って授業を受けています。義務教育は小学校までとなっており、公立学校にも机があれば、もっと多くの生徒が学校に通い続けるだろうと地元の教育専門家は話します。

より大きな成果を

インドと米国のロータリークラブのほか、学校関係者、地域社会のリーダーも集まって、学校管理委員会を結成し、各校が何を一番必要としているか話し合いました。通学していない子どもがたくさんおり、中には一度も学校に通ったことのない子どももいることがわかると、通学日を週3日制に変更。こうし

て通しやすい体制を整えたほか、授業のない日は先生が机を使って教授法の研修を受けることになりました。

「公立学校の先生たちは十分な資格を持っていますが、指導要項の枠内だけで授業をしていました」と話すマン・モーハン・カルヤニさん（プロジェクトリーダーを務めるロータリー会員）。「指導要項に書かれたこと以外にも、生徒の総合的な成長に必要なことはたくさんあります。そこで、生徒だけでなく先生もサポートすることにしたんです」

グローバル補助金では、生徒 1,685 人分の机を提供します。また教員 240 人に研修を行って、基本科目以外にも、生徒が自信をつけ、リーダーシップスキルやコミュニケーションスキルを身に付けられるような授業方法を教えました。前回の机の寄贈だけで、生徒の成績を 23 パーセント上げることに成功しており、今回のグローバル補助金プロジェクトではさらに高い成果が期待されています。